

ベニトンボの分布拡大

福井順治

ベニトンボ *Trithemis aurora* (Burmeister, 1839) は中央アジア～東南アジアの温暖な地域に広く分布する熱帯～亜熱帯系のトンボです。成熟♂は全身が赤紫色となり、翅脈も赤化して紅色に染まっていかに熱帯のトンボといった雰囲気があります。♀の体色は淡褐色で成熟に伴った大きな色彩変化はありません。色調も大きさもアカトンボの仲間によく似ていますが、アカトンボ属ではありません。日本では以前は南西諸島には見られず鹿児島県の一部にだけに分布していました。私は半世紀も前の1976年に初めて鹿児島県に出かけた時に、ごく限られたその分布地で何とか発見できてとても嬉しかったことを覚えています。しかし、1980年代以降に台湾から別系統が日本に侵入して以後は、南西諸島だけでなく九州、四国、本州西部まで急速に分布を拡大しているトンボとなりました。ここ数年の気温の上昇傾向は顕著ですから、本種に限らずさまざまな南方系の昆虫の分布拡大は温暖化の影響が大きいと考えられています。

静岡県では2023年秋に浜松市の2カ所で1頭ずつ見つかったのが最初の報告になりました(図1)。その後2024年に藤枝市、2025年に伊東市でそれぞれ1頭が見つかりましたが、この3年間で記録されたのは以上の4例だけで、すぐに広く各地で見られるようになるとの予想は外れました。近畿では和歌山県、奈良県、三重県などではすでに多数の記録があり、愛知県でも2017年に最初の記録が出ていました。さらに、隣県の神奈川県(2024年)、山梨県(2025年)でもすでに記録があります。

今年(2026年)は6月～8月までの段階で伊東市、森町、富士市(図2)、島田市(図3)、湖西市、菊川市(図4)、牧之原市で確認されています。いよいよ静岡県でも分布拡大が始まったように思われます。まだ観察例は多くありませんが、記録地の環境は、やや内陸にあって水が澄んだ水面が広い池に見つかる傾向があります。近畿地方での調査では9月～10月に個体数が多くなっているの、この秋の状況を注目しています。



図1 静岡県で最初に記録されたベニトンボの♀
(浜松市, 2023. 10. 15 油井雅樹氏撮影)



図2 一時捕獲したベニトンボの♂
(富士市, 2026. 7. 20, 坂本芳恵氏撮影)



図3 池の岸辺でナワバリ行動をする♂
(島田市, 2026. 7. 27)



図4 猛暑日に腹部挙上の姿勢をとる♂
(菊川市, 2026. 8. 1)